

## (パート2:国際環境教育)

### アジア・太平洋環境教育コンソーシアム

#### 1.三重から世界へ通用する環境人財の養成

三重大学は「世界一の環境先進大学」を目指し、三重に根ざし、世界に通用する環境人財の育成に力点をしています。平成19年には、総合大学として日本初となる全学一括のISO14001認証取得や学生が中心となる環境ISO活動など、実践的環境教育に取り組んでいます。特に、「環境資格支援教育プログラム」および「国際環境教育プログラム」の充実化を図っています。平成20年度文部科学省の教育GPの質の高い大学教育推進プログラムに「三重大ブランドの環境人材養成プログラム：事業推進責任者／朴 恵淑人文学部教授」が採択され、平成22年度まで積極的に推進します。

#### 2.アジア・太平洋大学環境コンソーシアムの構築

三重に根ざし、世界に誇れる環境人財の養成において、国際的視野にたった環境教育は必要不可欠となります。平成21年10月23日に本学において、国際環境教育ワークショップを開催し、環境教育コンソーシアムの組織・運営に関する具体的な枠組みを構築しました。まず、本学がアジア・太平洋の7カ国23大学が参加する「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」の事務局となり、国際環境教育プログラムの開発、国際環境研究の推進などに取り組むことにしました。また、テレビ会議システムを通じた英語での授業の提供、互いに各国の学生を受け入れ、企業や行政で国際環境インターンシップの実施などで連携を行うことに基本合意しました。

#### 3.国際環境教育シンポジウムの開催

大学・企業・行政との協働による実践的環境教育の実現のために第1回「アジア・太平洋大学環境コンソーシアムの組織・運営」国際環境教育シンポジウムを開催しました。韓国の5大学（梨花女子大学・東国大学・世宗大学・中央大学・啓明大学）、中国の2大学（江蘇大学・南開大学）、モンゴルの1大学（ECO-ASIA大学）、タイの2大学（チェンマイ大学・タマサート大学）、インドネシアの1大学（ボゴール農科大学）、オーストラリアの2大学（タスマニア大学・シドニー大学）、日本の10大学（三重大学・宮城教育大学・筑波大学・千葉大学・千葉商科大学・獨協大学・明治大学・名古屋大学・和歌山大学・岡山県立大学）の計23大学、企業（中部電力株式会社・シャープ株式会社）・行政（文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室、環境省中部地方環境事務所・愛知県）・

NPO（社）日本ユネスコ協会連盟）の関係者が参加しました。

#### 4.平成22年度の計画

現在、「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」はアメリカを含む9カ国33大学に拡大しています。平成22年10月16日には「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」の構築1周年記念国際環境教育シンポジウムを開催し、アジア・太平洋大学環境コンソーシアムでの環境教育のカリキュラムの構築・運営の相互協力の検討を行うことが決定しており、三重大学が中心となって環境教育活動を世界に広げ、三重から世界へ通じる環境人財を育成することは、三重大学の社会的責任（USR）を果たすきわめて有意義な機会であるといえます。



アジア・太平洋大学環境コンソーシアム（平成21年10月23日）



国際環境教育シンポジウム（平成21年10月23日）